

震災後の支援・復興

2011年3月11日午後2時46分、東日本大震災の発生により、東北地方の太平洋沿岸地域は観測史上最大級の地震・津波による甚大な被害を受けました。

東北大学は震災発生以来、復興に向けて様々な活動に取り組んできました。

震災直後のさまざまな支援活動

大学病院関係

被災した病院から救援要請が相次いだため、多くの大学病院スタッフが医薬品等の物資を携えて被災地へ入り、緊急医療にあたりました。また、ヘリを活用し被災地から重篤な患者を大学病院へ受け入れて治療を行いました。

放射線モニタリング

大気中の空間線量を学内4カ所、宮城県内7カ所で測定し、地域住民等に情報提供を行いました。また、野菜や水道水、大気、土壌、海水等の放射線量データを各自治体へ提供した。福島市への汚染土の除染指導なども行っています。

ロボット活用による被害調査

千葉工業大学と共同開発した緊急災害対応ロボット「クインス」を福島第一原発の原子炉建屋内へ投入し、線量率の測定や状況調査を行いました。

学生ボランティアの活動

宮城県の要請を受け、3～6月にかけて山元町で多くの学生ボランティアが個人宅の清掃や物資の仕分けなどを行いました。また、学生ボランティア支援室を設置し、学生への情報提供、物品の支援や心のケア、被災地へのボランティアツアーの主催などにも取り組んでいます。

震災情報の発信とアーカイブ化

震災に関する報告やシンポジウム等を4回にわたり実施し、本学の専門家が震災の実態を報告しました。



医療物資の搬送



緊急災害対応ロボット



学生ボランティア支援室主催石巻スタディツアーの様子

復興広報キャンペーンの実施

学外の方にも、本学への震災の影響や復興に向けての動き等が正確にわかりやすく伝わるよう、「復興広報キャンペーン」を実施しました。「元気・前向き 東北大学」のキャッチフレーズのもと、動画やプレゼンテーション資料等の公式コンテンツをホームページで公開し、本学の復興状況を国内外へ伝えました。



復興広報キャンペーン 公式ロゴマーク

ご寄附の受入れと活用

震災直後から、日本はもとより、世界各国の方々より、本学への多くのあたたかい励ましのメッセージやご寄附のお申し出をいただきました。

企業や財団等の団体、卒業生、有志で寄附をお集めくださった方々、本学を支援して下さる方々、本学教職員などから震災復興支援のために寄せられたご寄附は、2012年3月までに、合計1,388件、5億990万円にのぼります。

多くの方々からの物心両面にわたるご支援やご協力のもと、本学は、大学機能の回復へ向け迅速な復旧対応に努めるとともに、学生が学業を継続できるよう支援を行ってきました。

寄せられたご寄附は、破損した研究機材の修理や購入に活用させていただいたほか、学生が卒業まで経済的に安心して学業に励むことができるよう支援するため創設した、本学独自の奨学金制度「東北大学元気・前向き奨学金制度」等に継続して活用させていただいています。

学生への経済的支援

被災し修学が困難となった学生や本学の受験生を対象に、下記のような支援を行っています。

緊急支援奨学金による支援

被災の状況に応じて、20万円を上限とする緊急支援奨学金を一時金として支給しました。

入学検定料・入学金・授業料の免除

被災の状況に応じて、入学金及び授業料を免除し、2012年度学部入試受験者の入学検定料を免除しました。

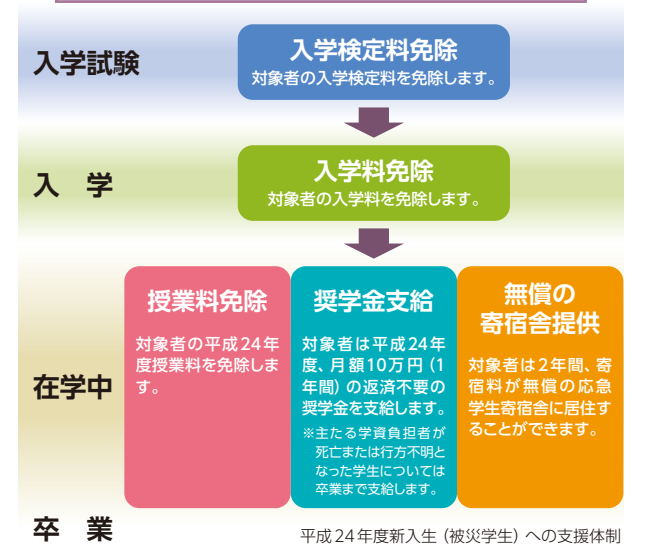
「東北大学元気・前向き奨学金制度」の創設

被災の状況に応じて、給付月額10万円の返還を必要としない奨学金制度を創設し支給しました。

応急仮設寄宿舍の建設・無償提供

被災した新入生や在学学生が無償で入居できる応急仮設寄宿舍を、仙台市内4カ所に建設しました。

平成24年度新入生（被災学生）への経済的支援体制 ～入学から卒業まで～



応急仮設寄宿舍外観（川内キャンパス）



応急仮設寄宿舍オープンリビング



応急仮設寄宿舍居室（約9畳・家具等設置）